

株式会社アイ・エム・ジェイ

東京都目黒区青葉台 3-6-28

代表取締役社長 櫻井 徹

シニア世代のスマートフォン利用に関する実態調査 —シニアのスマホ利用時間 30分に壁—

株式会社アイ・エム・ジェイ（本社：東京都目黒区 代表取締役社長：櫻井 徹 以下、IMJ）は、「シニア世代のスマートフォン利用に関する実態調査」を実施いたしました。

調査期間は2013年8月23日～8月27日、有効回答数は772名から得られました。

調査の狙い

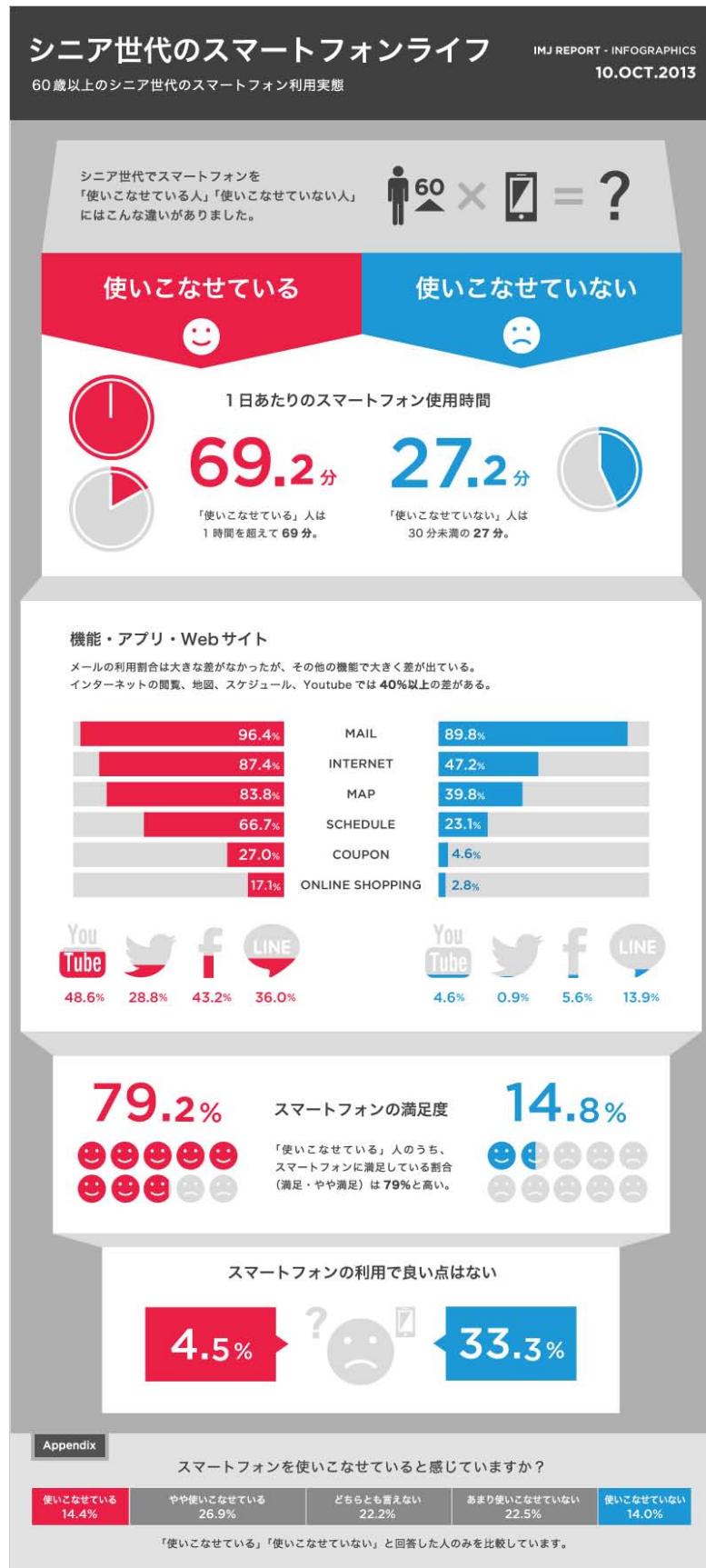
モバイル端末市場全体では、スマートフォンを利用する人が増加しているなか、携帯電話やパソコンにはとんど触れずに生活されているシニア世代（60歳以上）がいます。その一方で、アクティブシニアと呼ばれるデジタル家電やスマートフォンを積極的に利用するシニア世代も存在しています。IMJでは、こうしたスマートフォンを利用しているシニア世代の利用実態を把握するために調査を実施しました。

調査のトピック

- ・シニア世代における現在のスマートフォン保有率は60代21.9%、70代以上14.1%
- ・スマートフォン保有者の半数以上が「満足・やや満足」
- ・スマートフォンに満足している人の57%はiPhoneユーザー
- ・スマートフォンを「使いこなせていない」人の77%が、スマートフォンの利用時間は1日30分以下
- ・スマートフォンを1年以上利用していても、直近1年間にアプリをダウンロードしていない人は22%
- ・スマートフォンに不満を持っている人の41%が、「利用して良かったと思う点はない」

News Release

2013.10.10



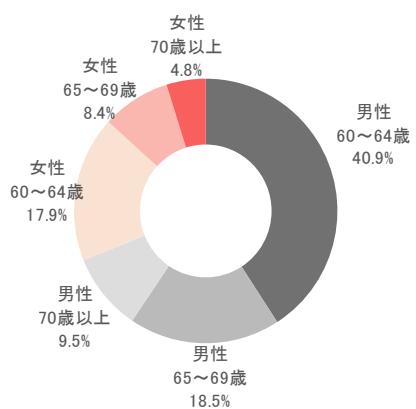
調査結果詳細

■ 調査概要

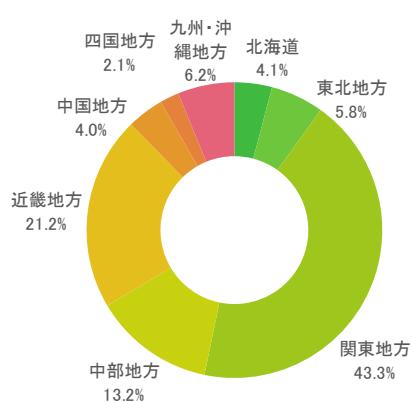
- ・調査方法 : インターネットリサーチ
- ・調査地域 : 全国
- ・調査対象 : 60~84 歳の男女 ※調査会社が保有する調査パネル
- ・有効回答数 : 予備調査・・・5,250 サンプル
本調査・・・ 772 サンプル
- ・調査日時 : 2013 年 8 月 23 日～8 月 27 日
- ・対象者条件 : 現在スマートフォンを保有している人に対し、本調査実施
- ・割付条件 : 年代別のインターネット利用率は「平成 25 年 7 月総務省全国男女推計人口」を元に算出し、その割合に基づき事前調査を実施。
本調査は事前調査での年代別の出現率に合わせて割付を行った。
- ※インターネット利用率は総務省「平成 24 年通信利用動向調査」を参照

■ 回答者属性

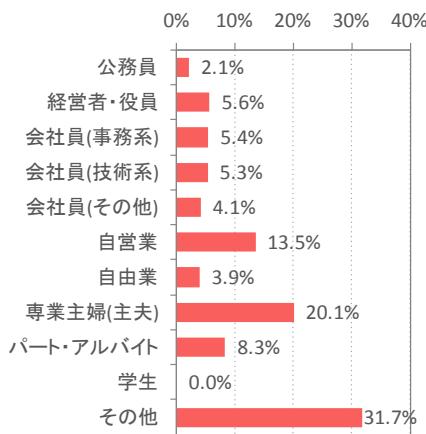
・性年代【n=772】



・居住地域【n=772】



・職業【n=772】



■シニア世代のスマートフォン保有率は60代21.9%、70代以上14.1%

予備調査として、60代以上を対象に現在のモバイル端末の保有状況と、今後の買い替え意向を尋ねたところ、60代では、78.1%がガラケー（※1）のみ、18.9%がスマートフォンのみ、3.0%がガラケーとスマートフォンの両方を保有していることがわかりました。

70代以上では、85.8%がガラケーのみ、12.1%がスマートフォンのみ、2.0%がガラケーとスマートフォンを両方保有している結果となりました。

買い替え意向から今後の保有率を予測すると、2年後に60代は29.4%、70代では22.2%がスマートフォンを保有（複数台保有の割合を含む）していると予測されます。

※1：本調査でガラケーとは「スマートフォンを除く従来型携帯電話」のことを指します

図1 年代別 ガラケー・スマートフォンの保有率（単一回答）

※プライベートでガラケーまたはスマートフォンを保有している人を全体とする

[n=5,250]

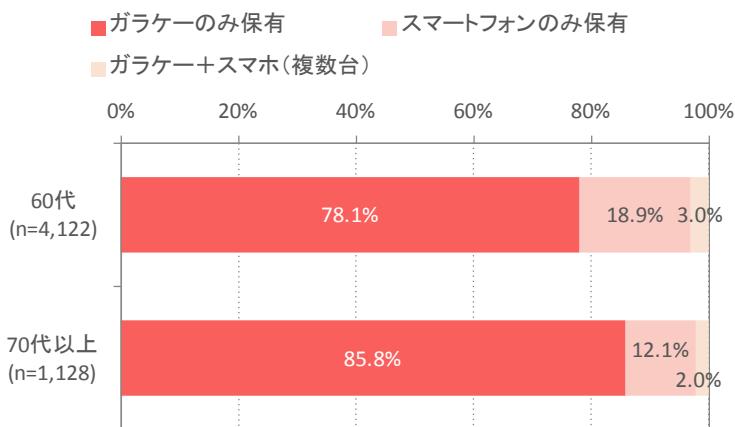


図2 60代のガラケー・スマートフォン保有率予測（単一回答）【n=4,122】

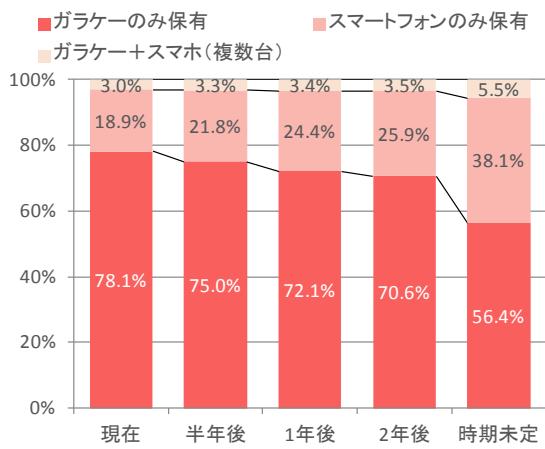
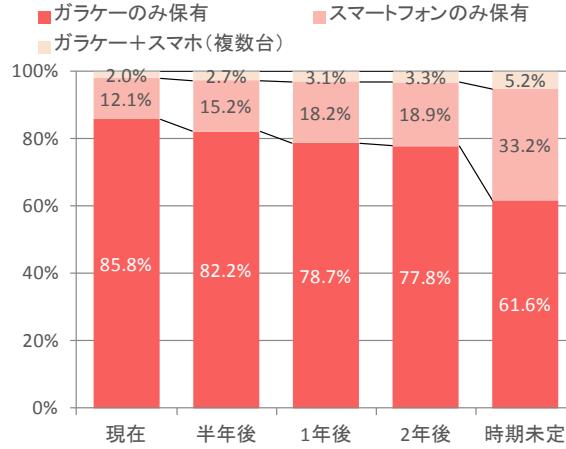


図3 70代以上のガラケー・スマートフォン保有率予測（単一回答）【n=1,128】



■スマートフォン保有者の半数以上が「満足・やや満足」

スマートフォン保有者のスマートフォンに対する満足度は、満足・やや満足合わせて 51.8%と、不満（不満・やや不満）の 21.2%と比較して高く、全体としてはスマートフォンを保有して満足している様子が伺えます。

また、自身がスマートフォンを使いこなしているか否かを自己評価で回答し、比較したところ、使いこなしている（使いこなせている・やや使いこなせている）が 41.3%、使いこなせていない（使いこなせていない・やや使いこなせていない）が 36.5%と、使いこなせていると感じている人の割合が、約 5 ポイント高いことがわかりました。

シニア世代の年代別に、満足度と使いこなし度を合わせた分布を見ると、どの年代でも「満足」で「使いこなせている」人の割合が最も高いことがわかります。

興味深いのは、「満足」だけれども「使いこなせていない」人の割合が 65～69 歳では 12.5%、70 歳以上では 15.5%いることで、自身では使いこなせていないけれども、スマートフォンを保有すること自体にポジティブな印象を持っていることが推察されます。

図4 スマートフォンに対する満足度
(単一回答) 【n=772】

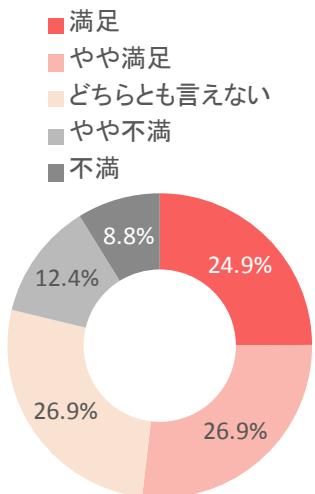


図5 自身のスマートフォン使いこなし度
(単一回答) 【n=772】

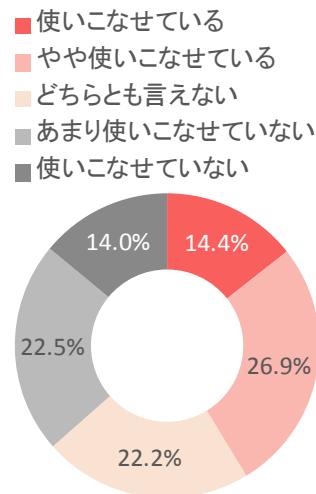


図6 年代別（60～64歳）スマートフォンに対する満足度と使いこなし度【n=454】

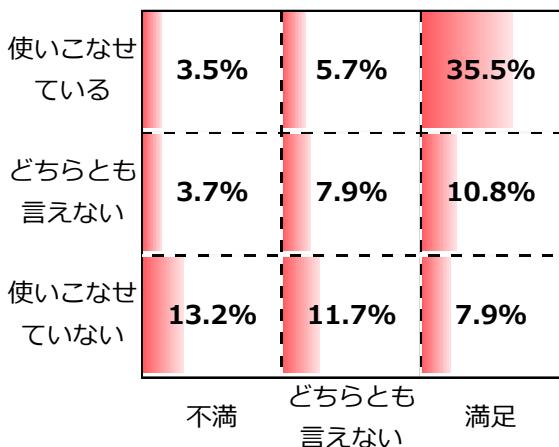


図7 年代別（65～69歳）スマートフォンに対する満足度と使いこなし度【n=208】

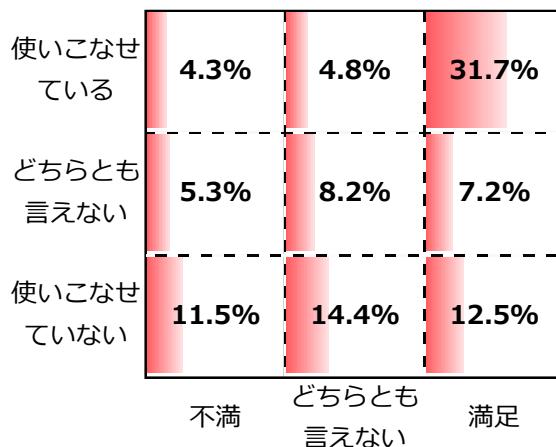
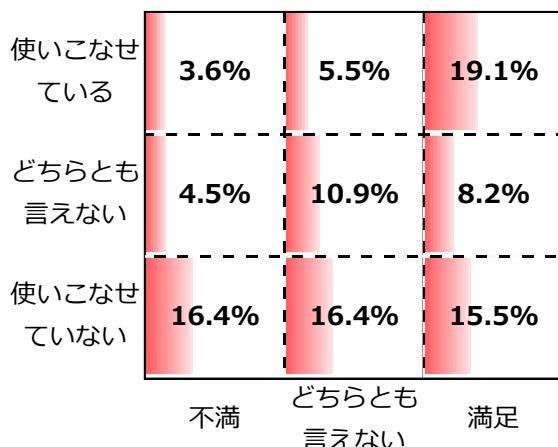


図8 年代別（70歳以上）スマートフォンに対する満足度と使いこなし度【n=110】



■スマートフォンに満足している人の57%がiPhoneユーザー

現在、スマートフォンを保有している人の利用機種は、iPhoneの割合が31.0%と最も高く、シニア世代においてもiPhoneは人気の機種であることがわかりました。次いで、Xperia、AQUOS PHONEが12.7%と並んでいます。主にシニア世代向けに作られている「らくらくスマホ（シンプルスマホ含む）」の割合は、8.2%でした。

スマートフォンの満足度別では、「満足」と答えた人の57.3%がiPhoneを使用しており、「不満」と回答した人の中では、「らくらく（シンプル）スマホ」の割合が最も高いことがわかりました。

図9 現在の利用機種（単一回答）

【n=772】

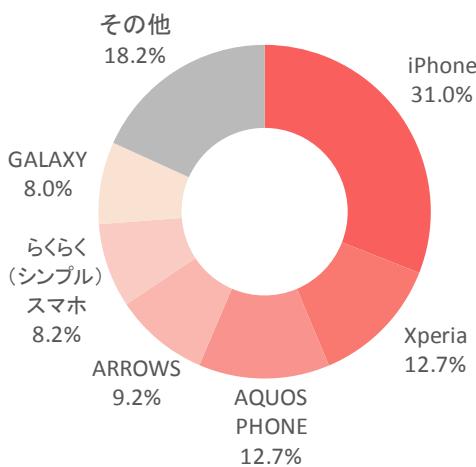


図10 満足度別 現在の利用機種（満足）【n=192】

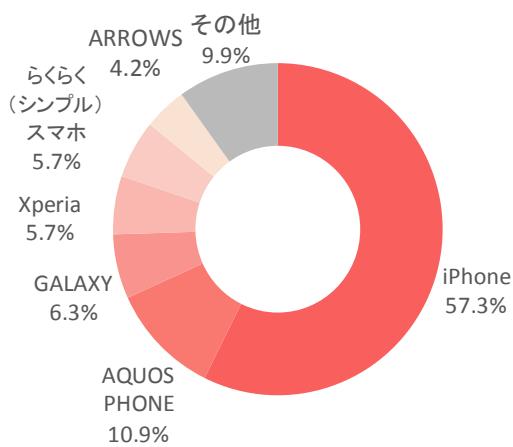
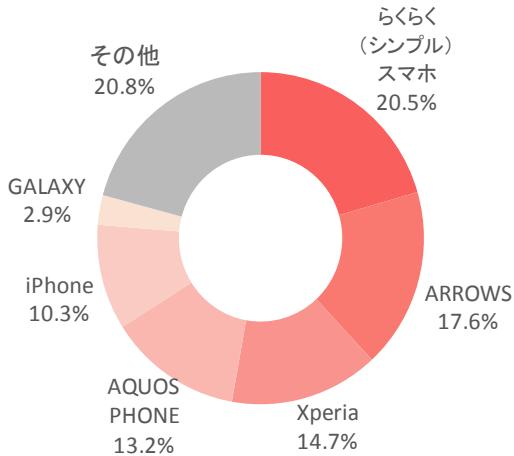


図11 満足度別 現在の利用機種（不満）【n=68】



■スマートフォンを「使いこなせていない」人の77%が、スマートフォンの利用時間は1日30分以下

シニア世代に1日あたり平均どのくらいの時間、スマートフォンを使用しているかと尋ねたところ、全体で最も割合が高かったのは、30分～1時間未満の31.1%でした。

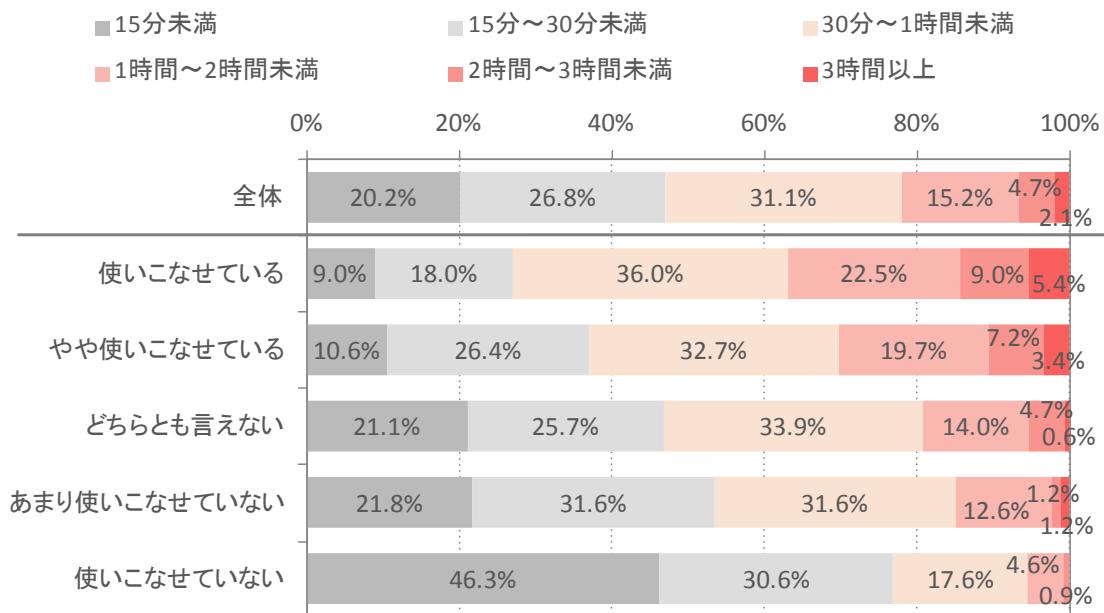
また、5人に1人の割合となる、22.0%の人が1日1時間以上使っていることも明らかになりました。

なお、下表および下図（図12）より、スマートフォンを使いこなしている人ほど利用時間が長く、使いこなし度と利用時間の関連性は、極めて高いことが推測されます。

使いこなし度	30分未満	1時間以上
使いこなせている	27.0%	22.0%
使いこなせていない	76.9%	5.5%

図12 使いこなし度別 スマートフォンの1日あたり平均利用時間（単一回答）

[n=772]

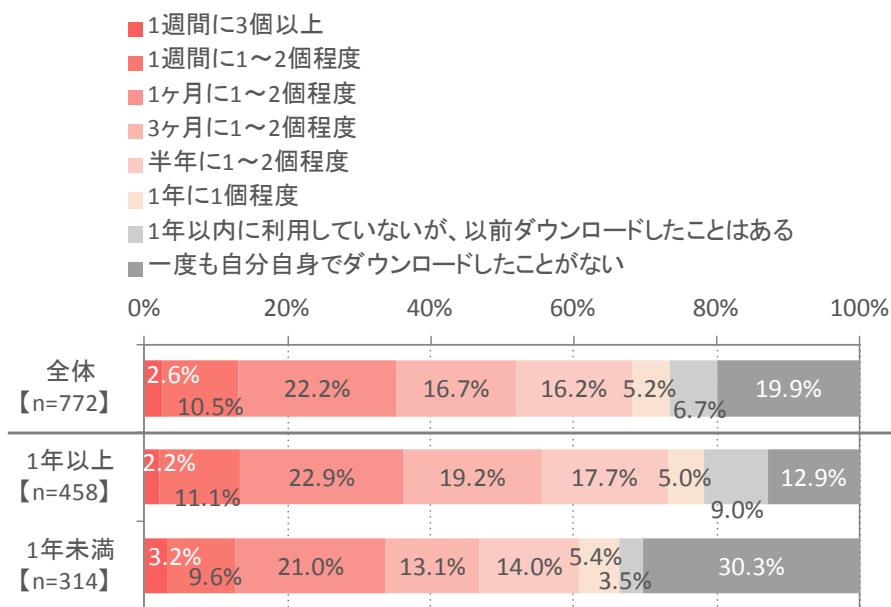


■スマートフォンを1年以上利用していても、直近1年間にアプリをダウンロードしていない人は22%

シニア世代にスマートフォンアプリのダウンロード頻度を尋ねたところ、全体を通して最も割合が高かつたのは、1ヶ月に1~2個程度の22.2%となり、少なくとも1ヶ月に1個はダウンロードしている人が全体の35.3%にのぼります。

しかしながら、全体では「一度も自分自身でダウンロードしたことがない(19.9%)」こともわかりました。スマートフォンを1年以上使用している人でも「一度も自分自身でダウンロードしたことがない(12.9%)」と答え、「1年内に利用していないが、以前ダウンロードしたことはある(9.0%)」と回答した人を合わせると直近1年間に1度もアプリをダウンロードしていない人は、21.9%となります。

図13 スマートフォン利用期間別 スマートフォンアプリのダウンロード頻度（単一回答）



■スマートフォンに不満を持っている人の41%が「利用して良かったと思う点はない」

シニア世代にスマートフォンを利用して良かった点を挙げてもらったところ、「パソコンサイトを見られる（42.2%）」「調べ物がスムーズにできるようになった（42.0%）」「カメラが簡単に使える（41.3%）」「様々なアプリが使えるようになった（40.4%）」とそれぞれに回答した人の割合が40%を越えており、スマートフォンの基本的な特徴に対して価値・利便性を感じていることがわかります。

スマートフォンに対する満足度（P5 図 4 参照）を基に比較すると「満足」と答えている人は、これらの基本的な特徴に価値・利便性を感じている割合が全体と比べて高く、その一方で「不満」と答えている人は、「利用して良かったと思う点はない（41.2%）」とスマートフォンに対して価値・利便性を全く感じていないこともわかりました。

■スマートフォンを利用して良かったと感じる点

図 14 全体（複数回答・一部抜粋）

【n=772】

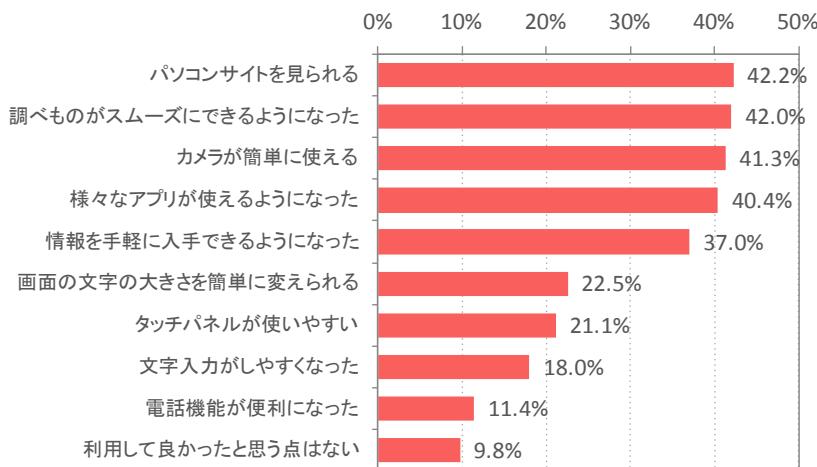


図 15 「満足」と答えた人【n=192】

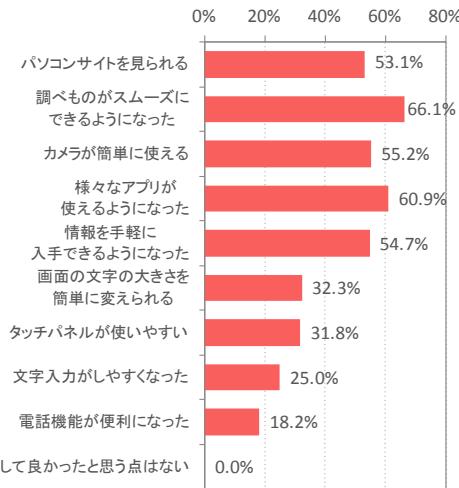
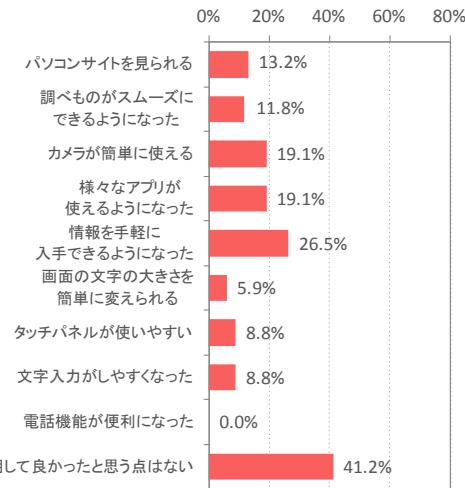


図 16 「不満」と答えた人【n=68】



News Release

2013.10.10



株式会社アイ・エム・ジェイについて (<http://www.imjp.co.jp/>)

インターネット領域に軸足をおき、Web 及びモバイルインテグレーション事業における豊富な知見・実績を強みに、スマートフォンを含むマルチデバイス対応、更には戦略策定・集客・分析（Web データ解析・効果検証等）まで様々なソリューションをワンストップで提供することで、顧客のデジタルマーケティング活動における ROI（投資対効果）最適化を実現いたします。

※ 文中に記載されている会社名、商品名は各社の商標または、登録商標です。

※ 掲載されている情報は発表日現在の情報です。検索日と異なる可能性がございますのであらかじめご了承ください。

※ 画面写真データ等ご用意いたしております。お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

本調査に関するお問合せ先

株式会社アイ・エム・ジェイ
R&D室 Research-Unit 担当：川野
TEL：03-6415-4311

報道機関からのお問合せ先

株式会社アイ・エム・ジェイ
ブランド・コミュニケーション室 広報グループ
TEL：03-6415-4257 E-mail：irpr@imjp.co.jp